

# 地域おこし協力隊活動記

なつかし昭和レトロ市の様子

vol.7

皆さん、こんにちは。古崎です。12月に開かれた「なつかし昭和レトロ市」の様子をお伝えます。

会場となった町民体育館に、町中から集められた真空管テレビ、蓄音機、黒電話、長火鉢や自在鉤など今では見られない貴重なものを展示しました。こういった物を使って再現された昭和のお茶の間は本物のようで、おもしろいものでした。子供たちはベーゴマやけん玉、射的といった昔の遊びを体験し、駄菓子コーナーも大人気でした。また、この日は寒い1日でしたが、屋外でも懸命にけん

ちん汁やポン菓子などを来場者に提供する方々の姿が印象に残っています。駐車場ではミニSLが子供たちを乗せて走り、クラシックカーやボンネットバスも見に来る人たちを楽しませていました。さらに会場中をにぎやかにちんどん屋が楽器を鳴らしながら歩き回って、場を盛り上げていました。

何回かイベントに携わっていると、イベントには人が集まることを実感できます。人と顔を合わせる機会をつくるのが地元でイベントを開催することの意義なのではないかと思います。



再現された昭和のお茶の間はまるで本物のよう！

昔の遊びを体験



車窓からの原風景  
ボー。50数年前の3月、蒸気機関車の汽笛の鳴る中、私は車窓から故郷に別れを告げ、夏井駅から次の世界へ出発しました。今では蒸気機関車の姿も駅舎もなくなりましたが、出発直前までの3年間、平への通学の往復の日々にお世話になりました。平からの復路は、東京箱根駅伝の箱根山道の厳しさに酷似していて、傾斜のきつい山合いの鉄路を登るときに機関車の吐き出す真っ黒な煙が客車内に充満し、息苦しかったのを覚えています。厳冬が過ぎ、春が巡り、

ふるさと小野町会

ふれあい通信



村上 峰久

むらかみ・みねひさ

- 南田原井出身
- 埼玉県支部

そして秋にかけ駕場の滝周辺の山は岩ツツジ、紅葉に覆われて、夏井川溪谷の美しい自然をゆっくり走る車窓から堪能できました。若き日を過ごした故郷の今、広報紙には放射能除染の状況が記事になっています。私も忘れがちになりますが、困難な問題に立ち向かう町の姿に頭が下がります。  
私の子供たちが小さかった頃、車で帰郷する途中、町の入口に「ようこそ笑顔とがんばりの町小野町へ」の表示板が窓から見えると、車内に笑い声と歓声が上がりました。ふるさと小野町がいつまでも笑顔溢れる町でありますように。